2015年6月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第461号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月１回　１日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

日本で唯一の月刊演芸専門誌

「やったネ５００号　東京かわら版」

演芸をより楽しくより深く知ってもらえる内容の原稿が満載

文・発行人　井上和明

日本で唯一の月刊演芸専門誌「東京かわら版」の創刊は昭和４９年１１月号です。爾来毎月２８日付け発行で、東京を中心とする落語・講談・浪曲の演芸情報、寄席の出演者、テレビラジオ演芸番組予定表などの情報を掲載してまいりました。昨年の１１月号で４１年目に突入しましたが、他に別冊として寄席演芸年鑑や寄席演芸家写真名鑑を不定期に刊行してきましたので、これらの積み重ねで６月号（平成２７年5月２８日発行）にて通巻５００号を迎えることができました。東京を中心とする寄席演芸の情報誌という極めて取り上げている範囲の狭いミニ情報誌が、欠号も無くここまで発行を続けてこられましたのも、利用して下さった読者の皆様、情報を提供してくれる演芸家の方々、そして影になり日向になり援助して頂いた数多の人々のお陰であると、感謝の念にて一杯です。

「東京かわら版」

スケールが桁違いですが、名前を使わせてもらうと「ぴあ」の寄席版というと分かりが良いかも知れません。主に東京近郊を中心とする演芸会の情報を纏めた月刊の情報誌です。横１１ｃｍ縦２０ｃｍのハンディーサイズで、男性は上着の内ポケットに、女性はハンドバッグに入れて持ち運べ、落語会の会場へも持参できます。通常は１３０頁前後で、一部４００円（税別）です。表1・表4のみ４Ｃ、他は１Ｃ。読み物はタテ打ちで表紙から右開き、情報はヨコ打ちで裏表紙から左開きになっています。毎月１万部の印刷で、定期購読者を中心に第三種郵便やメール便で約半数の５千部を直送。

「東京かわら版」平成２７年４月号
本体価格600円

他は、表4にお名前を掲載してある協賛店の方々にまとめて引き受けて頂いております。別に、寄席や何ヶ所かの直販のお店、そして地方・小出版流通センターさんを通して各書店さんにお届けしています。

読み物は著名人で演芸好きな方のエセー、話題の落語家さんへのインタビュー、コラムニスト堀井憲一郎さんの落語に関する人気連載など、演芸をより楽しくより深く知ってもらえる内容の原稿が満載です。そして広告も落語会や演芸に関する本・ＣＤ・ＤＶＤや映画の宣伝物で、貴重な情報源になっています。

メインコンテンツの演芸会情報は、落語協会と落語芸術協会のメンバーによる番組が１０日毎に替わっている寄席定席（上野鈴本演芸場・浅草演芸ホール・新宿末広亭・池袋演芸場、そして下席はありませんが三宅坂国立演芸場）については、上席（１日～１０日）、中席（１１日～２０日）、下席（２１日～３０日）別に番組を掲載。

そして日々の情報は、開催日・時間・会の名称・番組（出演者・出し物・芸種など）・会場・料金・連絡先を会ごとに１頁に１５本づつ掲載しています。掲載料は一切無料で、毎月８日の締切日までに届いた番組は公序良俗に反しないかぎり原則として全て掲載。多い月は９００本にもなっており、一日平均３０本東京近郊で落語会が行われている勘定になります。キャパシティー１０００人の有楽町よみうりホールから、１０人も入れば一杯のおすし屋さんの２階が会場の会など、規模は千差万別ですが毎日行われている定席以外に、これだけの催しがあることに驚かされます。特に土曜日・日曜日は会が重なっていて、会の案内が３～４頁に亘って記載されており一日で５０本にもなっていることがあります。これらの会の出演者は、掲載日別出演者索引の頁で、何日に出ているか、どこの寄席に入っているか調べることが出来るようになっています。

別項目にて「早耳情報」として翌月以降の案内も掲載していますが、これにも６頁割いており、会の案内も２００本以上になっていて、３ヶ月以上先の予定をお載せしていることもあります。年々この欄の情報が求めれ、かつ演者さんからも掲載希望が寄せられています。

「寄席演芸年鑑」

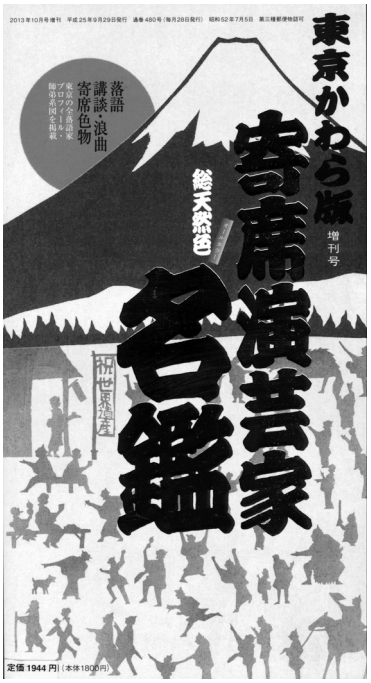
１９９８年５月号の別冊増刊号として「寄席演芸年鑑」を発行しました。“東京演芸界の「いま」を詰め込みました“と

のコピーにて、前年１年間の寄席演芸界の動き、いま手に入る演芸ＣＤ・ビデオ総覧、前年発行の演芸本の全て、そして寄席芸人プロフィールを一冊にしました。年鑑は１９９９年から２００３年版まで通常号と別に増刊号として発行しましたが、２０１０年版からは毎年４月号を増頁して、年鑑との合併号（一部６００円・税別）としております。一年間の演芸界を纏めるという地道な作業の積み重ねが、後年貴重な資料になろうであろうことを願って、発行を続けています。プロフィールは２００４年から写真付きにし、2，3年おきに発行しています。

「寄席演芸家名鑑」

２００４年４月号増刊として「寄席演芸年鑑２００４年版」に顔写真入り「寄席演芸家名鑑」を掲載しましたのが写真名鑑の嚆矢です。これは創刊３０周年記念として、東京の落語・講談・浪曲・寄席色物（寄席に出ている前記３種目以外の演芸、漫才・紙切り・太神楽・俗曲・マジックなど）の芸人さん達全員のモノクロ顔写真（横２ｃｍ縦３ｃｍ）にプロフィール（所属協会・真打二ツ目前座の別・生年月日・出身地・出身校・入門時の師匠名・入門年月・前座名・二ツ目昇進年月・真打昇進年月・襲名改名年月・出囃子・血液型）を２００４年３月現在の記録を掲載してあります。写真を揃えるのに苦労しましたが、３０年近く東京の寄席芸人を採り続けている横井洋司カメラマンの全面的な協力を得、足りない分は本人や各方面から入手してなんとか揃えました。

この後、写真名鑑は２００６年版と２００９年版を年鑑との合併号にて発行。２０１１年版で年鑑と切り離し、写真名鑑として単独に出版（写真は横３．５ｃｍ縦４ｃｍ）。この号で特筆すべきことは、これまでただ一人掲載の許可を貰えなかった立川談志師匠からＯＫが出て、事務所提供の顔写真が付いていることです。（以前の３冊はご本人のプロフィールには写真ナシですので、苦肉の策として見開きの対向頁に談志師匠の本・ＣＤの広告を掲載しておりました）。これでやっと全芸人さん掲載の写真名鑑と謳えるようになったわけです。



「寄席演芸家名鑑」本体価格 1800 円

そして現在発売している２０１３年版（１８００円・税別）では総天然色名鑑と謳いオールカラーの写真を掲載しました。以前と異なり写真のサイズを、真打は横３ｃｍ縦５ｃｍ二ツ目横２．５ｃｍ縦４ｃｍ前座横２ｃｍ縦２ｃｍと変化を加えました。落語家４派合計で（東京の落語家は、柳亭市馬師匠が会長の落語協会・桂歌丸師匠会長の落語芸術協会・そして共に落語協会から分離独立した先代円楽師匠が作った５代目円楽一門会と立川談志師匠創立の落語立川流のいずれかに所属しています）真打３３１人、二ツ目１２０人、前座６３人、色物９４人、講談は６０人、浪曲４３人です（２０１３年７月現在）。

※前座は入門してから３年前後です。この間自分の時間は殆どありません。二ツ目になると羽織が着られるようになり、落語家として認められ時間も自由になりますが、仕事も自ら開拓しなくてはなりません。よく相撲の十両に例えられます。落語家さんは二ツ目になったときが一番嬉しいと言います。その後１０～１５年で真打になります。師匠と呼ばれるようになり、弟子も取ることができるようになります。

この写真名鑑は発行してから２年近くがたち、資料的に些か古くなってきており、最新の本を求めるご要望を頂いております。つきましては次の本を出すべく準備を進めており、今回は初めての試みとして、東京のみならず関西の寄席芸人さんも加えた全国版の寄席演芸家名鑑が発行出来れば、と考えております。

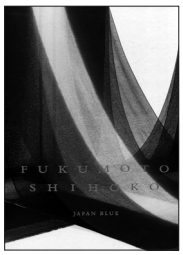
この秋に出せれば・・・。乞う、ご期待の程・・・。

（いのうえ　かずあき・「東京かわら版」発行人）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率８%）表示です。

『福本潮子作品集　藍の青』●福本潮子著



藍は江戸時代以降、庶民の衣類をはじめ暖簾や前掛けなど、町の至る所で用いられた。明治時代に日本を訪れたイギリス人化学者ロバート・ウィリアム・アトキンソンはその色を「ジャパンブルー」と評したとされる。藍染め作家として国内外で活躍を続ける福本潮子氏の作品を最初期から通観する本書は、日英対訳となっており、英語タイトルは【FUKUMOTO SHIHOKO JAPAN BLUE】である。

藍は中間色や淡色に染めるのが難しいとされるが、福本氏は濃淡を表現する脱色染めという方法を編み出した。その結晶である「さざ波」シリーズは、アートとは無縁な者が見ても、これが日常見慣れた藍染めなのかと、色表現の自在さに驚く。他に「流れ」「朝霧夕霧」等自然を連想させる作品はもちろん、「時空」「残像」等、抽象的なタイトルにも興味が引かれる。そして「楕円」や「スターライト」では藍の青は宇宙空間の青であり、白い点は星々の光そのもののように見える。

◆ 8640 円・225 × 300mm・224 頁・**赤々舎**・東京・2015/3 刊・ISBN978-4-86541-027-3

『サリン　それぞれの証』●木村晋介著

1995年3月20日の地下鉄サリン事件から、今年で20年が経ちました。本書は一連のオウム事件の被害者、被害者支援に携わった方々の証言を中心に、事件の全貌を捉えようとしたものです。証言からはオウムに犯罪の予兆があったにも関わらず、警察はオウムの本格捜査に踏み出せなかったことが見えてきます。そして発生したサリン事件。被害者の方たちは今なお後遺症に悩まされ、家族の方にも深い苦しみをもたらしました。事件は決して過去のことではなく、関わった人たちそれぞれに大きな影響を与えていることもわかります。著者も自らのラジオ番組に、後にオウムに殺害される坂本堤弁護士に出演してもらうなど、一連の事件に近い位置にいただけに、なぜ事件が起きたのか？なぜ防げなかったのか？という思いには強いものがあります。証言と共に事件を追体験し、その後の20年の思いを聞くことで、改めて地下鉄サリン事件とオウム真理教について読者自身に深く考えさせる一冊です。

◆2160円・四六判・270頁・**本の雑誌社**・東京・2015/3刊・ISBN978-4-86011-268-4

『続・地産地消大学　－オルタナティブ地域学の試み』●湯崎真梨子著

年長者の伝統技術が若者に受け継がれていく5年目を迎えた和歌山県那智勝浦町の水車小屋再生プロジェクト。木質水車を完成させ、築80年の小屋を撤去し、プロジェクトの第4期としていよいよ小屋の再生に取りかかる。また大学の研究者が主催する地域食材活用講座では地元の婦人が講師となり、数々の料理が伝えられていく。

本書は昨年出版された本の続編で、同じくわかやま新報に連載されたコラムをまとめたもの。大学教授の著者や研究者が現場に出向き、地域自らが出来る地域づくりについて実証実験を繰り返し取り組んだ記録である。第2部では和歌山大学型グリーンイノベーション創造プログラムの活動の一端を多くの写真と共に紹介している。地域調査の初日、今ひとつ乗り気でなかった学生も現場の生活資源を目の当たりにすると、たちまち調査の魅力にはまっていく。若者を変える力を持つ知恵の結晶で地域の活性化が期待される。

◆1620円・B6判・153頁・**南方新社**・鹿児島・2015/3刊・ISBN978-4-86124-316-5

『電子出版と電子図書館の最前線を創り出す　－立命館大学文学部　湯浅ゼミの挑戦』●湯浅俊彦著

出版産業のビジネスモデルが電子出版に大きく変容しようとする中で、電子出版と電子図書館化のための明確なビジョン作りに取り組む立命館大学文学部湯浅ゼミは、2013年度に現場へのフィールドワークなどにより、『デジタル環境下における出版ビジネスと図書館』を刊行したが、2014年度には、より実際的に、大学図書館における電子学術書の利用契約に基づいてゼミ授業の高度化を図り、電子出版と電子図書館の可能性を考察し、未来のデザインづくりを行った。

電子出版と電子書籍の発展と大学教育等のこれからを左右する重要なポイントとして、電子書籍の信頼性に直結する「版」の問題、小・中学校におけるタブレット端末を用いた読書活動の意義、公共図書館での電子書籍を活用した多文化サービスの在り方、リアル書店における電子書籍販売の可能性と方法などの課題が洗い出され、徹底討議を踏まえ、意識変革に向けての様々な問いかけがなされる。

◆2592円・A5判・270頁・**出版メディアパル**・千葉・2015/3刊・ISBN978-4-902251-79-1

『神々の記憶　－北東北の魅力を探る伝説探究読本』●高橋　智篇著

八郎太郎伝説、あるいは八郎潟伝説というと、地元と無関係な私でさえ小学生のころ学校の教科書か何かで教わった記憶がある。秋田県の八郎潟がどうやってできたかを、八郎という大男を主人公にした素朴ながらもスケール感たっぷりの物語、といった印象である。本書でも三湖伝説と呼ばれるように、八郎潟・十和田湖・田沢湖をめぐる湖沼主争い伝説の主人公のひとりである。もとは人間だった八郎・南祖坊・辰子姫の三人がやがて竜蛇と化し、それぞれが三湖の主となるというもの。盛り沢山のエピソードは中国の伝奇小説を読んでいるようで面白い。各説話によって登場人物やモノなどに多少の違いや変化がみられ、実にバリエーションに富んでおり、民衆の豊かな想像力に感心する。総じて、マタギの生活・竜神信仰・異人（まれびと）論・巨人伝説など様々な性格の話が盛り込まれており、興味は尽きない。著者の伝説渉猟には驚嘆するが、後世に残そうとする熱意が伝わる。

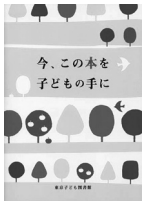
◆1728円・新書判・303頁・**盛岡出版コミュニティー**・岩手・2015/3刊・ISBN978-4-904870-34-1

売行良好書

期間：2015年4月16日～5月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『明星』3240円・ナナロク社　(2)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404円・書籍情報社　(3)『今、この本を子どもの手に』1080円・東京子ども図書館　(4)『京都の市電　昭和を歩く』2808円・トンボ出版　(5)『誰にも尋けないおしりの難病』1404円・石風社　(6)『新・山野の鳥　改訂版』648円・日本野鳥の会　(7)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(8)『本で床は抜けるのか』1728円・本の雑誌社　(9)『不登校は1日3分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(10)『九州遺産　近現代遺産編１０１』2160円・弦書房　(11)『見える形でわかりやすく』864円・エンパワメント研究所　(12)『エコで楽しむもの作り』1728円・ラグーナ出版



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『本で床は抜けるのか』1728円・本の雑誌社　(2)『本屋大賞　２０１５』600円・本の雑誌社　(3)『東京かわら版　５月号』500円・東京かわら版　(4)『本の雑誌　３８４号』1000円・本の雑誌社　(5)『戦国大名』2200円・忘羊社　(6)『古本屋ツアー・イン・神保町』2160円・本の雑誌社　(7)『奥多摩登山詳細図　西編　全１１２コース』950円・吉備人出版　(8)『北条氏邦と鉢形領支配』1944円・まつやま書房　(9)『松江城』540円・ハーベスト出版　(10)『明星』3240円・ナナロク社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『山陰の神々　神々と出会う旅』2000円・今井出版　(2)『京都の市電　昭和を歩く』2808円・トンボ出版　(3)『北条氏邦と鉢形領支配』1944円・まつやま書房　(4)『奥多摩登山詳細図（西編）　雲取山・三頭山・御前山・鷹ノ巣山　全１１２コース』950円・吉備人出版　(5)『不登校は1日3分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(6)『高尾山・景信山　陣馬山　登山詳細図』823円・吉備人出版　(7)『倶舎』2592円・自照社出版　(8)『地球惑星科学入門　第2版』3240円・北海道大学出版会　(9)『江若鉄道の思い出』1728円・サンライズ出版　(10)『奥多摩東部登山詳細図　全８８コース』823円・吉備人出版　(11)『北海道　地図の中の鉄路』6480円・亜璃西社　(12)『改訂　ジュニア版　琉球・沖縄史』1620円・編集工房東洋企画

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

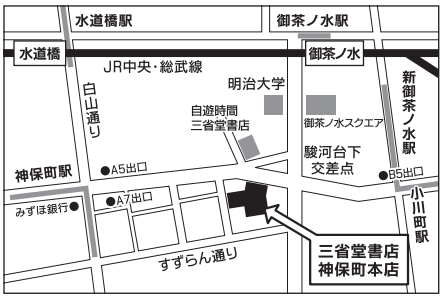
▼今年も、**新規取引のデータ**を纏めてみました。一昨年（2013年度）は新規加入20社とこれまでで最低の数字でしたが、昨年は持ち直し29社と増えました。特に九州や沖縄等西の地方の新規出版社が増えています。新刊点数も一昨年より200点、7%も増えました。

▼本誌一面に御寄稿いただいたように、日本で唯一の月刊演芸専門誌**【東京かわら版】**（本体400円）が昭和49年11月創刊以来、この6月号で500号を迎えました。もう一誌、本の雑誌社の**【本の雑誌】**2015年6月号（本体926円）は、創刊40周年ぶっつけ本番特大号。こちらは、初期は気紛れ発行だったので、通巻384号で40年。特大号には、椎名誠、目黒考二、沢野ひとし、木村晋介という創刊メンバーの記念エッセイや本棚写真、そして本の雑誌が選ぶ「40年の400冊」も。また、5月には、創刊40周年記念完全復刻版『本の雑誌』創刊号～10号BOXセットが発売されました。本体価格5000円。6月12日（金）にはジュンク堂書店池袋店にて、椎名誠、目黒考二両氏によるトークイベント「創刊40周年記念　この世に本があるかぎり　『本の雑誌』は続くのだ!?」が開催されます。19：30～。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。